OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ごあいさつ
Author(s)	千代, 賢治
Citation	癌と人. 1992, 19, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24004
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ご　あ　い　さ　つ

理事長　千　代　賢　治

皆様には，益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。

わが国では2020年頃には４人に１人が65歳以上の老人ということになるであろうと予測されます。このような高齢化の進展のなかで，昔の老人に比べて，より健康で，より意欲のある高齢者も増加しています。

しかし一方，現実にはこのような高齢化社会の到来とともに，成人病，特にがんの急増が大きな社会問題になっています。がんは1981年からずっと死亡順位の第１位を占め，昨年１年間にがんで亡くなられた方は21万人に達しています。特にがん死亡の重要性は，社会的にも，家庭的にも重要な地位にある働き盛りの年齢層から高年齢層にかけての各年齢層（30～79歳）において死亡順位が第１位を占めていることです。

このような情況の中で，わが財団が，がんに関する研究の奨励助成や様々ながん対策事業に果たしてきたこれまでの役割と，関係各位のご努力に対し改めて感慨を覚えます。またわが財団をご支援下さる大勢の役員，評議員，賛助会員の皆様にこの機会に改めて心より厚くお礼申し上げます。

がんは人類を悩ます最強かつ共通の敵ともいうべき疾患であり，その制圧は先進諸国はもとより，今や発展途上国をもまきこんだ全地球的な課題となっています。わが国においても，政府が1983年に「対がん10カ年総合戦略」を策定し，それに基づいて発がん遺伝子などの最先端のがん研究を内外の英知を結集して推進し，その成果を予防，診断，治療に反映させ，がんで苦しむ人々のために役立てようとしています。

わが財団は多年にわたり，がん予防のための知識普及，早期発見のための検診拡大，そして学術研究の奨励助成に努めてまいりました。特に今後わが国において発生の増加が予想される乳がんと大腸がんの検診を中心にその早期発見に努力してまいりました。

医学の進歩は目覚ましく，がんも決して不治の病ではなくなりつつあります。しかしがん制圧には，先ずがんに関する国民の正しい認識を深めるとともに，検診による早期発見の推進をはかることが重要であり，そのためには官民一体となって取り組まねばなりません。

わが財団は各自治体，対がん協会，大阪商工会議所そして各事業体のご理解とご支援を得て，がん対策事業の一翼を担い，がん制圧のための活動を広げていきたいと念願しています。

がんを制圧し万人の健やかな健康を実現するために，今後とも皆様の力強いご支援とご協力を切にお願い申し上げます。